

---

平成26年度  
五所川原市民討議会 報告書



平成26年度 五所川原市民討議会実行委員会

---

# 目次

● 市民討議会の概要	..... 1
・事業概要	
・タイムスケジュール	
・話し合いのルール	
● 市民討議会の目的・手法	..... 4
・市民討議会の目的	
・市民討議会の手法	
● 討議の進め方と論点（ねらい）	..... 7
・全体テーマ	
・テーマ1～テーマ3	
● 討議シート	..... 9
・テーマ1～テーマ3（提言）	
・投票結果	
● 市民討議会資料編	..... 26
・実行委員会規則	
・参加者案内通知	
・参加者アンケート結果	
・新聞記事、広報	
・コーディネータープロフィール	

# 市民討議会の概要

## ■ 事業概要 ■

- 事業名 平成26年度 五所川原市民討議会
- 運営形態 五所川原市 ・ 公益社団法人 五所川原青年会議所 共催
- 開催期日 平成26年7月26日(土)  
13時30分～17時
- 開催場所 五所川原市民学習情報センター
- 参加者 21人(18歳以上の市民)
- 参加者選出 住民基本台帳から無作為に抽出した1,500名の市民へ参加案内を送付し、43名から応募がありました。厳正なる抽選の結果35名を参加者と決定し、参加依頼を送付しました。(個人情報保護のため、抽出は五所川原市、発送・集計作業は平成26年度市民討議会実行委員会事務局が担当しました。)
- 討議テーマ 五所川原の未来に向けて  
～人口減少時代を乗り切るためのまちづくりを考えよう～
- 小テーマ  
【テーマ1】：「人口減少の原因について考えよう」  
【テーマ2】：「人口減少に歯止めをかけるためには？」  
【テーマ3】：「私たちにできる人口減少対策」
- 情報提供  
情報提供① 【テーマ1】において、五所川原市より「五所川原市の人口減少の要因と影響」に関する情報提供を受けました。  
情報提供② 【テーマ2】において、総合コーディネーター平井先生より「人口減少対策」に関する情報提供を受けました。
- 討議進行 【少人数のワークショップ形式によるグループ討議】  
①参加者を、討議グループ(1グループ約5人、計5グループ)に分け、進行は実行委員会のファシリテーターが務めました。  
②討議グループごとに小テーマに関するグループディスカッションを行い、グループとしての意見を集約しました。  
③グループで集約した意見を発表したのち、賛同できる意見に対して投票を実施しました。
- 実施報告 討議結果は、報告書にまとめ、提言として市長に提出します。

## ■平成26年度五所川原市民討議会プログラム■

平成26年7月26日（土）

五所川原市民学習情報センター

TIME	内容
13:00～	受付開始
13:30～	開会
13:38～	進行についての説明
13:49～	<b>市民討議 テーマ1</b> 『人口減少の原因について考えよう』
14:24～	<b>市民討議 テーマ2</b> 『人口減少に歯止めをかけるためには？』
15:04～	休憩
15:20～	<b>市民討議 テーマ3</b> 『私たちにできる人口減少対策』
16:10～	グループ発表
16:35～	グループに投票
16:40～	まとめ
16:55～	閉会
閉会后	参加者アンケート 随時解散

## ■ 話し合いのルール・意見の出し方 ■

討議に先立ち、総合コーディネーターより、話し合いのルール及び意見の出し方について説明を行いました。

各テーブルでは、ファシリテーターが、討議がスムーズに進むよう、付箋の使い方や話し合いの進め方などについてのサポートを行いました。

### 話し合いのルール

- ① 自分だけ話さない
- ② 頭から否定しない。  
質問として聞く。
- ③ 人の意見を最後まで聞く。
- ④ 楽しい雰囲気大切に。

---

## 市民討議会の目的・手法

### ■ 市民討議会の目的 ■

今回の市民討議会の目的は、自治意識の向上と自治の担い手の育成としました。このディスカッションを通じ、市民がよりよい暮らしのために何を求め、どう行動しようとしているのかという本音を引き出すとともに、そのような場を提供することで、市民参加者が今まで以上に、この地域に興味を持ち、自らが主体的に行動することの重要性を認識していただくという市民意識の変革を期待するねらいが込められています。

### ■ 市民討議会の手法 ■

～プラーヌクスツェレとの比較で～

今回の市民討議会は、ドイツの市民参加の手法である「プラーヌクスツェレ（注）」に学びながらも、独自に地域に見合った形に再構成し、実施するにあたり、様々な創意工夫を行いました。その特徴は、次のとおりです。

#### 1. 運営組織＝実行委員会形式

五所川原市と公益社団法人五所川原青年会議所の共催事業として開催し、開催準備から当日の運営を両者からなる実行委員会が担当しました。実行委員会は、計8人で構成され、4月15日の初会合から7月26日の開催日まで、延べ5回開催されました。

実行委員会では、常に当日参加する市民参加者の立場に立った議論を心がけてきました。また、自由な意見交換と立場を越えた実行委員としての公平性を基本として、「提案・討議・検証・改善」を何度も繰り返しながら進められ、終盤では、当日初参加の市民を想定して、実際にワークショップを行いました。

## 2. 住民基本台帳による完全無作為抽出

市民討議会への参加の呼びかけは、18歳以上の市民を対象に住民基本台帳から無作為抽出を行い、1,500名に参加依頼書を送付しました。一定地域に偏らないよう旧市町村単位の人口比率を加味したことで、より地域の構成要素に沿った抽出となりました。締切日までに送られてきた参加承諾書は、43名でした。なお、個人情報保護の観点から抽出は五所川原市が、発送・集計作業は実行委員会で担当しました。

## 3. 話し合いの方法

話し合いは、プランクスツェレとほぼ同様の手法で行われました。その特徴の1点目は、1グループ約5人単位で、全部で5グループが同時に話し合いを進めたことです。少人数での話し合いでは、グループ内全ての人が発言する機会があります。2点目は、各グループにより発表が行われ、全体の意見の傾向を見るために、参加者が投票を行うことで、参加者全体の意見の共有に努めたことです。

## 4. コーディネーターによる先導

話し合いにおいて、スムーズな進行とテーマから逸脱しないように有識者であり、経験豊富な弘前大学大学院地域社会研究科の准教授平井太郎様にコーディネーターとして全体の総括を行っていただきました。

(注)：解説：プランクスツェレとは・・・

プランクスツェレ（独：Planungszelle：計画細胞）は、ペーター・C・ディネールドイツ・ヴパタル大学名誉教授により1970年代に考案された市民参加の手法です。

ドイツでは、1990年のドイツ統一後、地方公共団体において住民投票制度が導入されていったことに伴い、直接民主主義に対する認識が高まりました。このような潮流の中で、市民参加の手法の1つとしてプランクスツェレが注目されました。現在はスペインやオランダなどでも取り組みがなされています。他の市民参加の手法に比べてコストがかかる点と開催の準備や最終報告に時間がかかる点に問題があるものの、サイレントマジョリティと呼ばれる一般の市民の声なき声を抽出する方法としてきわめて有効であると評価されています。

### ★定義

『プランクスツェレは、無作為抽出で選ばれ、限られた期間、有償で、日々の労働から解放され、進行役のアシストを受けつつ、事前に与えられた解決可能な計画に関する課題に取り組む

市民グループである』～「プラーヌクスツェレ（ディーネル教授 著）」より～

★主な特徴（ドイツ型）

- 1 話し合いへの参加者を無作為抽出で選ぶ。
- 2 参加者に謝礼を払う。
- 3 参加者だけで話し合いを行い、全体で投票を行う。
- 4 各話し合いの前に現状や課題などの情報提供を行う。
- 5 まとまった結果を市民答申として公表する。

---

## 討議の進め方と論点（ねらい）

### ◆全体テーマ 五所川原の未来に向けて ～人口減少時代を乗り切るためのまちづくりを考えよう～

◇ねらい：県内で年々進む人口減少。ここ五所川原においても人口減少は進む一方となっている。そこで小テーマから市民目線による人口減少原因を見つけ出し、解決策について意見交換すると共に、行政のみならず市民の行動による人口減少対策（まちづくり）に結びつくように設定しました。

#### □情報提供1

◆内 容「五所川原市の人口減少の要因と影響に関する情報提供」  
（討議1に先駆け約5分間説明。パワーポイントスライド）

◇ねらい：五所川原の人口減少の実態をグラフ等用いて説明することにより五所川原の人口減少の実態を知ると共にどのような要因により人口減少が進むのかを確認、意識付けすることをねらいとする。

#### □討議1 ◆小テーマ「人口減少の原因について考えよう」

◆論 点：人口減少の原因を確認し共有を図る。

◇ねらい：人口減少の主な要因「低出生」「高死亡率」「高社会減（人口流出）」の三つについて市民から見た人口減少の原因を参加者自身が確認するための作業にもなります。また、自己紹介と絡め行います。

◇ポイント：出てきた内容を最終的にジャンル（医療・雇用・自然・生活など）分けし、どのようなジャンルにおいてどのような原因があるのかを見つけだす。

## □討議2 ◆小テーマ「人口減少に歯止めをかけるためには？」

◆論 点：討議1で出された原因についてのジャンルごとの原因について解決策を見出すと共に、「行政」「市民」「協働」に区分し、どの主体で行うことができるか討議します。

◇ねらい：討議1から導き出した原因に対して、解決策となる事業・取り組みをできるだけ多く抽出する。また、区分することにより、行政のみならず市民の主体性の発揮の必要性を共有することをねらいとする。

### □情報提供2

◆内 容「平井先生による他地域における人口減少対策の事例について」

◇ねらい：他地域における人口減少対策など専門家からの意見を聞くことにより、討議2により出された区分を再確認してもらうと共に、討議3の討議内容を深めることをねらいとします。

## □討議3 ◆小テーマ「私たちにできる人口減少対策」

◆論 点：「市民」「協働」の区分から私たちにできる人口減少対策（まちづくり）をシミュレーション（成果目標を達成するために行う最も有効な取り組みの確認・提案）することで参加者の主体的参加意識の向上につなげる。

◇ねらい：討議2で得た解決策の区分について情報提供2を聞いたうえで再度確認し、「市民」「協働」で行うことができる解決策をまとめ、考えられるアイデアや具体的行動を書き出し、発表することで市民のまちづくりにおける参加意識を向上させることをねらいとする。

---

## 討議シート

チーム名：チームじょっぱり

ファシリテーター：成田和代

討議テーマ1 人口減少の原因について考えよう

★人口減少の主な要因「低出生」「高死亡率」「高社会減(人口流出)」の三つについての原因を洗い出しを行った。

### 低出生に関わる原因

ジャンル	原因	
経済	経済的理由	専業主婦になれない
	子育てにお金がかかる	
婚活	若い人の県外流出	若い人が少ない
	晩婚化	出会いの場が少ない
意識の変化	結婚率の低下	子育てより自分の楽しみ優先
	核家族	

### 高死亡率に関わる原因

ジャンル	原因	
生活	運動不足	歩く習慣がない
	意識が足りない	
食	塩分の取りすぎ	飲酒量が多い

### 高社会減に関わる原因

ジャンル	原因	
雇用	仕事がない(働く場)	すぐやめてしまう
	労働時間が長い	賃金が低い
	共働き	魅力的な職場が少ない

### 低出生と高社会減

雇用	仕事がない(働く場)	賃金が低い
	労働時間が長い	魅力的な職場が少ない
	共働き	

## 高死亡率と高社会減

自然	雪国、寒い	
----	-------	--

## 低出生と高死亡率と高社会減

雇用	低収入	
環境	近所付き合いの希薄化	

討議テーマ2 人口減少に歯止めをかけるためには？

★討議テーマ1で出された各ジャンルごとに解決策を見出し「行政」「協働」「市民」のどこが主体で行うことができるか討議を行った。

	行政	協働	市民
婚活		SNSを使った活動	街コンに結婚したくない人を巻き込む
食	塩分チェッカーを各家庭に配布 塩分の表示をする	農家と協力して地産 地消運動をする 調理方法を検討する 地域ブランド興し	減塩を呼びかけ、塩分チェックを行う
雇用	若者が働きたくなるような職場を増やす 職場を作る 企業誘致	地元食品で加工品を作る お土産品を作る 地域ブランド興し 廃校利用	伝統芸能を職業化 みしまこぎん復活
生活		田舎に住みたい都会人を連れてくる	民謡ダンス
自然	暖房費の補助	住みやすい住宅	
経済	子供関係の補助金を作る		
意識の変化			イベントを作る アニメ街コンなど

### 討議テーマ3 私たちにできる人口減少対策

#### ★市民・協働で行うことができる人口減少対策の企画を行った

テーマ	廃校利用型総合宿泊施設を作る！
選定理由 (問題点)	1, 全年齢層の雇用の場が少ない 2, 市民の健康意識が低い
内容 (手法)	☆廃校を利用した宿泊施設を開設。 一カ所で五所川原のすべてを体験出来る。 1, 地産地消レストランを設置（地場産品を利用した伝統食と塩分の少ない食事の提供、レシピも公表） 2, 体育館での伝統芸能発表 3, 体育館を空き時間を利用して一般開放 4, 教室を使つての宿泊 5, 美術室を使つての伝統工芸品の展示（みしまこぎん等）
効果	①総合的な宿泊施設を作ることにより雇用の場を確保出来る。 ②短命県を売りに！ 塩分量の多い伝統食と少ない食事を比較提供することにより、もともとの地場産品のおいしさをPRすると共に短命県の原因として塩分摂取量が多いことの意識改革を行うことが出来る。 ③地元の伝統芸能を発表、PRする場と共に伝統芸能に携わる人材を育成し、職業化出来る。また、伝統芸能の保存にも寄与する。 ④アニメの即売会やコスプレ発表など普段、伝統文化と縁のない若者等に伝統芸能に触れる機会を作ることにも出来る。

チーム名：将来の夢創り隊

ファシリテーター：関 拓 人

討議テーマ1 人口減少の原因について考えよう

★人口減少の主な要因「低出生」「高死亡率」「高社会減(人口流出)」の三つについての原因を洗い出しを行った。

### 低出生に関わる原因

ジャンル	原因	
結婚	結婚しても1世帯あたりが産む子どもの数が少ない	結婚への夢をもてない
	結婚しない若者が多い	
仕事	将来に対して希望が持てない	所得が低すぎて子どもを産み、育てる環境がない
	いい仕事に恵まれない	
生活環境	仕事の都合に合わせて子どもを預けられない	シングルマザーが一人で悩んでしまう
	認知症へのサポート不足	在宅介護が負担で子育て出来ない
	育てたいと思える環境じゃない	

### 高死亡率に関わる原因

ジャンル	原因	
ストレス	酒、タバコ、塩分の取りすぎ	働き盛りの人にストレスがかかる

### 高社会減に関わる原因

ジャンル	原因	
生活環境	雪(⇒閉塞感、憂鬱なイメージ)	近所の人とのコミュニケーション不足
	交通の便が悪い	行政制度の情報発信不足
	核家族化が進んでいる	

### 低出生と高社会減

生活環境	雪(⇒閉塞感、憂鬱なイメージ)	認知症へのサポート不足
	交通の便が悪い	育てたいと思える環境じゃない
	核家族化が進んでいる	シングルマザーが一人で悩んでしまう
	近所の人とのコミュニケーション不足	在宅介護が負担で子育て出来ない
	行政制度の情報発信不足	対象者個人だけでなくその人を支える人へのサポートが欲しい
	仕事の都合に合わせて子どもを預けられない	

## 高死亡率と高社会減

ストレス	酒、タバコ、塩分の取りすぎ(ストレス解消手段として)	娯楽が少ない
	働き盛りの人にストレスがかかる	曜日ごとにレクがあるといい(スポーツ)
	ストレス解消手段が少ない	ボーリングなどの世代を超えて楽しめるものがない

## 低出生と高死亡率と高社会減

必要不可欠	将来に対する希望、前向きな気持ち
-------	------------------

討議テーマ2 人口減少に歯止めをかけるためには？

★討議テーマ1で出された各ジャンルごとに解決策を見出し「行政」「協働」「市民」のどこが主体で行うことができるか討議を行った。

	行政	協働	市民
婚活	支援制度	出会いの場を作る 街コン 結婚のメリットを発信する	親と子の考え方を変える (親がお見合いを世話することも無くなり、結婚しなくても仕方ないと考えている)
ストレス	楽しい場所を作ってほしい 娯楽施設を作る スポーツ趣味で交流できる場所	レクリエーションクラブを市民が作り、市がそれに対して助成する。 町対抗市民運動会	津軽の昔語りサークル
生活環境	移住支援 子どもの遊べる場所を作る 役所の縦割り行政をやめる 行政対応を親切に	グラジでスポーツとかイベントの情報発信 地域に密着した情報発信 情報媒体を増やす 空き地を活用して、コミュニティ	世代を超えたコミュニティを形成 悩み相談サークル(同じ境遇の集い)
仕事	企業誘致 最低賃金を上げる 地元企業の支援 創業支援 農地+空き家を合わせて斡旋することによる包括的支援 一次滞在	地元の良さを内外に発信する 今ある資源の活用 直売所 移動販売	津鉄沿線沿いに移動販売をする 伝統の味を伝える

### 討議テーマ3 私たちにできる人口減少対策

#### ★市民・協働で行うことができる人口減少対策の企画を行った

テーマ	津鉄沿線移住・定住プロジェクト
選定理由 (問題点)	<p>空き地・空き家が有効活用されていない</p> <p>介護や子育てのストレスが多いため、子を産む人が減っている。</p> <p>交通手段としても観光資源としても重要な津鉄が衰退している。</p>
内容 (手法)	<p>就農トータル支援によって一時滞在と定住を結び付ける。</p> <p>①移住面⇒単なる就農支援だけでなく、空き家の斡旋と合わせて生活面支援も行っていくことによって一時滞在を促進する。</p> <p>②定住面⇒駅舎を利用した地域住民とのコミュニティ形成によって一時滞在の人を定住させる</p> <p>飯詰を元気にする会といったNPO法人に地元のコミュニティ形成のリーダーを担ってもらう。</p> <p>駅舎のコミュニティ活動の一環として直売所などを行い、就農研修で滞在している人の販売支援とともにコミュニティへの参加を促す。</p> <p>就農研修滞在者がコミュニティ活動に参加することにより地域への帰属意識を高めるとともに近隣住民の方からも農業のノウハウなどを学ぶ機会になる。</p>
効果	<p>駅舎や津鉄沿線沿いの空き地を活用することでまちのにぎわいが生まれる。</p> <p>人が集まるようになれば津鉄の活性化に繋がる。</p> <p>就農研修滞在者が地域との繋がりが生まれることで移住に繋がる。</p> <p>また、コミュニティが生まれることで似たような興味関心や、似た悩みを持つサークルが生まれストレス解消手段に繋がる</p>

チーム名：木村組

ファシリテーター：木村 健太郎

討議テーマ1 人口減少の原因について考えよう

★人口減少の主な要因「低出生」「高死亡率」「高社会減(人口流出)」の三つについての原因を洗い出しを行った。

### 低出生に関わる原因

ジャンル	原因	
保障	子供から大人まで同じ保障 教育にお金がかかる	低所得の不満
結婚	未婚者多い	大人という意識の低さ
	結婚に不満	同性としか交流をもたない
	結婚したがる	

### 高死亡率に関わる原因

ジャンル	原因	
食	生活様式	塩分取りすぎ
診断	健康診断受けない	
ストレス	孤独感	
人生観	長生きしたいと思わない	
自然	雪国	

### 高社会減に関わる原因

ジャンル	原因	
意識	親の面倒みない	都市へのあこがれ
雇用	企業が少ない	都市の賃金が高い

### 高死亡率と高社会減

郷土愛	郷土愛が足りない	郷土の教育
-----	----------	-------

## 討議テーマ2 人口減少に歯止めをかけるためには？

★討議テーマ1で出された各ジャンルごとに解決策を見出し「行政」「協働」「市民」のどこが主体で行うことができるか討議を行った。

	行 政	協 働	市 民
食	有名シェフを呼んで減塩料理提案	市民から健康的なオリジナル料理を募集・商品化	塩抜きしたヘルシーな料理のレシピを教える
結婚意識	出会いの場づくり 若者の一日保育 コンサル作る	街コン 出会いを企画	結婚の良いところを教える 趣味を作る
雇用	異業種や外人の市職員雇用 大手の誘致企業の導入		
保障	子供のいる人の住宅費無料 義務教育期間の医療費無料	低所得者の住宅費を 少なくする 家族用アパート	
郷土愛	魅力あるまちづくり 金木・市浦にもお金を	授業に郷土愛を取り入れる 先人の苦勞を知る 小さくてもみんなでやる催し物 郷土体験教室 郷土を知るツアー	郷土を知る 近所の人による見守り 隣人を助け合う
学校		勉強・スポーツの エリートを作る	
意識	冬にも雪のない地下道 空き家・空き地の利用 市から健診に出るようTEL		高齢者の趣味作り

### 討議テーマ3 私たちにできる人口減少対策

#### ★市民・協働で行うことができる人口減少対策の企画を行った

テーマ	郷土愛がまちを作る
選定理由 (問題点)	郷土に対する愛着が少ない
内容 (手法)	<ul style="list-style-type: none"> <li>郷土を知るため、学校で住民参加の授業をする (歴史、郷土芸能、体験教室など)</li> <li>勉強した成果を発表する場を企画する。 (ねぷた祭り、ツアー、コミュニティサークルなど)</li> </ul>
効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者の生きがいにつながり、健康にも気を使うようになる。</li> <li>五所川原に住んでいて楽しいと思える祭りとなる。 (嘉瀬の奴踊り、荒馬、十三の砂山など)</li> <li>出会いの場が増加し、結婚、出生率の増加につながる。</li> <li>偏りのない地域づくりと「仲間意識」の活性化につながる。</li> <li>住民が参加することで役割が増え、雇用のきっかけづくりとなる。</li> </ul>

チーム名：お母さんと1姫2太郎      ファシリテーター：佐々木 邦 和

討議テーマ1 人口減少の原因について考えよう

★人口減少の主な要因「低出生」「高死亡率」「高社会減(人口流出)」の三つについての原因を洗い出しを行った。

### 低出生に関わる原因

ジャンル	原因	
教育	小中学校での保健指導の不足	妊娠前、妊娠中の心身の健康づくりの徹底
お金	20~40代で結婚してない男女がとて多い	収入面で結婚に不安
	暮らしに余裕がないという人が多い	
育児環境	育児のサポート無い	コミュニティが無い

### 高死亡率に関わる原因

ジャンル	原因	
食生活	塩分のとりすぎ	酒の飲みすぎ
生活習慣	運動不足	たばこの吸いすぎ
	じょっぱり、かたから気質で検診の勧めに従わない	健診受診率が低い
心理	将来性への不安感	

### 高社会減に関わる原因

ジャンル	原因	
地域環境	家賃が高い	生活環境、勤務制度の悪さ
雇用	市内での正社員の募集が少ない	仕事が少ない
	賃金が安い	
		進学で家を出た子供が帰ってこない

### 低出生と高社会減

雇用	以前の東芝、日立のような安定した企業誘致をしてほしい
----	----------------------------

## 低出生と高死亡率

生活習慣	妊娠前の母親の痩せ
------	-----------

## 高死亡と高社会減

心理	近所とのコミュニケーション不足
----	-----------------

討議テーマ2 人口減少に歯止めをかけるためには？

★討議テーマ1で出された各ジャンルごとに解決策を見出し「行政」「協働」「市民」のどこが主体で行うことができるか討議を行った。

	行政	協働	市民
教育	学校での育児教育		
お金	結婚→育児の資金支援 結婚相談 結婚サポート	生活に対するモデル ケースを発表 安定した職場の指導	
育児環境	市運営でのサポート	定年で元気な人を活用	
雇用	仕事を増やす 個人経営をサポート 賃金を高くする	勤務環境の指導 給料を上げる	
地域	都市的な利便サービス 学校・社会など居場所を増やす		町内のコミュニケーション
心理		一人一人の意識向上 地域のコミュニティを増やす	町内のコミュニケーション
食			酒は飲みすぎない 塩分を取りすぎない コンビニ生活の改善
習慣			運動をする

### 討議テーマ3 私たちにできる人口減少対策

#### ★市民・協働で行うことができる人口減少対策の企画を行った

テーマ	心を豊かに！！地域環境向上
選定理由 (問題点)	人口減少の要因として「心理的不安」と「地域環境」が挙げられた。
内容 (手法)	①人とつながろう運動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い年代との交流の場</li> <li>・育児に関する交流の場</li> <li>・既存の町内会の活性化</li> </ul> ②まちをよく知ろう運動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・検診制度の利用を高める</li> <li>・市の補助政策の周知</li> <li>・広報をもっとよく読んでもらう</li> <li>・TVCMで五所川原の魅力周知</li> </ul> ③まちをもっと良くしよう運動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・育児休暇を取りやすくする</li> <li>・中心街、駅前を整備する</li> </ul>
効果	3つの運動が心理的不安を解消し、地域環境を整える。 これにより住みよい豊かなまち、五所川原となり人口減少につながる。

チーム名：Eね！！

ファシリテーター：高松 一 政

討議テーマ1 人口減少の原因について考えよう

★人口減少の主な要因「低出生」「高死亡率」「高社会減(人口流出)」の三つについての原因を洗い出しを行った。

### 低出生に関わる原因

ジャンル	原因	
仕事	経済的理由	賃金が低い
	子育てにお金がかかる	
環境	婦人科が少ない	産休の取れる環境がない
	託児所が少ない	離婚へのイメージが悪い

### 高死亡率に関わる原因

ジャンル	原因	
習慣	塩分の摂り過ぎ	喫煙・飲酒
意識	健診に行かない	運動量が足りない

### 高社会減に関わる原因

ジャンル	魅力	学校
魅力	遊ぶところがない	働く場所がない
	喫煙・飲酒	魅力がない
学校	市内に高校以上の学校が少ない	

討議テーマ2 人口減少に歯止めをかけるためには？

★討議テーマ1で出された各ジャンルごとに解決策を見出し「行政」「協働」「市民」のどこが主体で行うことができるか討議を行った。

	行政	協働	市民
魅力	交通の便の改善 都心へのアクセス	レジャー施設建設 今以上のねぶたのPR ねぶた+αで若者を取り込む	飲食店を増やす 特にランチ
習慣	高齢者に塩分チェッカー を無償でプレゼント 喫煙者に罰金制度		
学校		各学校のレベルを上げる 講師を呼んでセミナー開催 授業料免除	
意識	意識改革運動	職場でのセミナー開催 健診で注意を促す 健診の無料化	
仕事	起業への支援制度拡充 資格取得支援制度		

### 討議テーマ3 私たちにできる人口減少対策

#### ★市民・協働で行うことができる人口減少対策の企画を行った

テーマ	資格・就職支援バックアップ制度
<b>選定理由 (問題点)</b>	<p>企業と学校との繋がりが薄い。</p> <p>授業内容が就職に直結しておらず、在学中に具体的な将来のビジョンを描けない子ども達が多い。</p> <p>企業が求める人材と子ども達が働きたいと考える企業双方の求めているものをもっとOPENに。</p>
<b>内容 (手法)</b>	<p>高校側でオープンキャンパスの様なイベントを開き、小中学生にもっと高校のことを知ってもらう。</p> <p>企業や大学も合同でブースを設け、市民に対しても開かれたイベントにする。</p> <p>企業がどんな人材を求めているのかを直接子どもに伝え、学校側は就職に直結する資格取得を支援出来る体制を整え、幼い頃から就職へ向けた意識を育てていく。</p>
<b>効果</b>	<p>学校や企業の魅力をPRすることで、市外からのUターン者の増加 就職率の上昇(企業が望む人材を確保しやすくなる)</p> <p>若者が集まることで出会いの場にもなる(未婚率の低下)</p> <p>企業が望む人材が確保され、経営安定に繋がり、家庭の財布や時間に余裕が生まれ、出生率低下。</p> <p>人口流出が防がれ、地元で若者が定住し、郷土愛が生まれやすい土壌が出来上がる。</p>

## 投票結果

- 1位 グループ名：木村組 8票  
テーマ：郷土愛がまちを作る
- 2位 グループ名：チームじょっぱり 7票  
テーマ：廃校利用型総合宿泊施設を作る！
- 3位 グループ名：お母さんと1姫2太郎 5票  
テーマ：心を豊かに！！地域環境向上
- 4位 グループ名：Eね！！ 4票  
テーマ：資格・就職支援バックアップ制度
- 5位 グループ名：将来の夢創り隊 2票  
テーマ：津鉄沿線移住・定住プロジェクト

---

# 市民討議会 資料編

## 平成26年度 五所川原市民討議会実行委員会会則

### (名称)

第1条 本会は、平成26年度五所川原市民討議会実行委員会（以下「実行委員会」という。）と称する。

### (目的)

第2条 実行委員会は、平成26年度五所川原市民討議会（以下「市民討議会」という。）を円滑に実施することを目的とする。

### (所掌事務)

第3条 実行委員会は、次に掲げる事務を所掌する。

- (1) 平成26年度五所川原市民討議会実行委員会会則（以下「会則」という。）の制定及び改廃に関すること。
- (2) 事業計画及び事業報告に関すること。
- (3) 予算及び決算に関すること。
- (4) 市民討議会の実施に関すること。
- (5) 市民討議会の成果及びその手法の効果の検証・評価に関すること。
- (6) 市民討議会の実施状況の公開に関すること。

### (組織)

第4条 委員は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 公益社団法人五所川原青年会議所会員
- (2) 五所川原市職員
- (3) 前2号に掲げるもののほか、実行委員会委員長が特に必要と認める者

(委員の任期)

第5条 委員の任期は、平成27年3月31日までとする。

2 補欠により就任した委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(役員)

第6条 実行委員会に、次に掲げる役員を置く。

(1) 委員長 1名

(2) 副委員長 若干名

(3) 書記・会計 若干名

(4) 監事 2名

2 役員は委員の互選により選出する。

3 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長が職務を行うことができない場合は、その職務を代理する。

(会議)

第7条 実行委員会の総会及びその他会議は、委員長が召集する。

2 実行委員会の総会は、第3条第1号から第3号までの規定に関して審議し、決定する。

3 実行委員会のその他会議は、第3条第4号から第6号までの規定に関して協議及び検討する。

4 実行委員会の総会及びその他会議等の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(事務局)

第8条 実行委員会の事務を処理するため、事務局を置く。

2 事務局に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

(経費)

第9条 実行委員会の経費は、補助金その他の収入をもって充てる。

(予算及び決算)

第10条 実行委員会の収支予算については、総会の議決により定め、収支決算については、事業終了後、速やかに監事の監査を経て総会の認定に付さなければならない。

(会計年度等)

第11条 実行委員会の会計年度は、この会則の施行日から始まり、平成27年3月31日に終わる。

(解散)

第12条 実行委員会は、その目的が達成された時に解散する。

(その他)

第13条 この会則に定めるもののほか、実行委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が会議に諮って定める。

附 則

この会則は、平成26年4月22日から施行する。

## ■参加者案内通知■

平成26年6月吉日

市民の皆様へ

五所川原市長 平山 誠 敏

公益社団法人 五所川原青年会議所  
理事長 平川 新介～活力ある・明るく住みよい豊かなまち～  
「五所川原市民討議会」への参加のお願い

初夏の候 ますますご清栄のことと存じます。

この度、五所川原市と公益社団法人五所川原青年会議所は、平成26年度の取組といたしまして、「五所川原市民討議会」を協働で開催することといたしました（広報ごしょがわら6月号に内容が掲載されています。）。

市民討議会は、さまざまな市民の皆様から、幅広い意見を出し合っただき、市民参加のきっかけづくりと、市政への市民参画と協働を推進していくものです。

この市民討議会への「参加のお願い」は、18歳以上のすべての市民の中から1,500名を無作為抽出し、送付させていただいています。

つきましては、貴方様が無作為抽出により選出されましたので、趣旨をご理解のうえ、ぜひご参加くださいますようお願いいたします。

## 記

- |           |  |
|-----------|--|
| 1 日 時     | 平成26年7月26日（土）13時30分～17時00分                             |
| 2 場 所     | 五所川原市民学習情報センター<br>（住所：五所川原市字一ツ谷503番地5）                 |
| 3 討議会のテーマ | 五所川原の未来に向けて<br>～人口減少時代を乗り切るためのまちづくりを考えよう～              |
| 4 謝 礼     | 3,000円<br>（詳細は決定通知時にお知らせいたします。）                        |
| 5 参加定員    | 30名程度  |
| 6 進め方     | 参加者がいくつかのグループに分かれ、テーマに沿った意見を出し合っただき、グループごとにまとめていただきます。 |

- 7 回答方法
- (1) ご参加いただける場合  
 お手数ですが、別紙の承諾書に必要事項をご記入のうえ、同封の返信用封筒により、平成26年6月27日までにご返送ください。
- (2) 不参加の場合  
 お手数ですが、別紙アンケート用紙にご記入いただき、同封の返信用封筒により、平成26年6月27日までにご返送ください。
- 8 参加者の決定 **参加の申込みが多数となった場合は、申し訳ありませんが、抽選とさせていただきます。**
- 9 その他
- 託児サービスなど  
 参加を承諾される方で、託児を希望する場合は、事前にご連絡ください（対象1歳から未就学児まで）。
  - そのほか、ご不明な点がございましたら、下記事務局までお問い合わせください。

【問い合わせ先】

五所川原市民討議会実行委員会事務局

（公益社団法人 五所川原青年会議所内）

〒037-0052 五所川原市字東町 17-5 商工会館

TEL 0173-35-4049

（10：00～17：00、土日祝を除く）

FAX 0173-35-4044

五所川原市財政部企画課

〒037-8686 五所川原市字岩木町 12

TEL 0173-35-2111 内線 2152～2154

FAX 0173-35-3617

## ■各種アンケート■

### 参加者アンケート集計結果

参加者合計 21 名

男性 9 人 女性 12 人

10代・・・1名 20代・・・5名 30代・・・4名 40代・・・4名

50代・・・2名 60代・・・4名 70代・・・1名

(質問 1) 本日、この市民討議会に参加された動機はなんですか？

- |                |      |            |
|----------------|------|------------|
| 1 おもしろそうだったから  | ・・・・ | 11 票 (52%) |
| 2 テーマなどにひかれたから | ・・・・ | 7 票 (33%)  |
| 3 報酬が魅力的だったから  | ・・・・ | 1 票 ( 5%)  |
| 4 その他          | ・・・・ | 2 票 (10%)  |

その他意見

- ・勉強になればいいなと思ったから。
- ・五所川原市に対する他の人の意見を聞いてみたかったから。

(質問 2-1) 市民討議会の時間的な長さはいかがでしたか。

- |           |      |            |
|-----------|------|------------|
| 1 長い。     | ・・・・ | 3 票 (14%)  |
| 2 ちょうど良い。 | ・・・・ | 17 票 (77%) |
| 3 短い。     | ・・・・ | 2 票 ( 9%)  |

(質問 2-2) 「長い」あるいは「短い」とお答えになった方におたずねします。  
ちょうど良い時間はどのくらいでしょうか。

- |        |      |     |          |      |     |
|--------|------|-----|----------|------|-----|
| 3時間くらい | ・・・・ | 2 票 | 2~3時間くらい | ・・・・ | 1 票 |
| 4時間くらい | ・・・・ | 1 票 | 4時間くらい   | ・・・・ | 1 票 |

(質問 2-3) 市民討議会を開催する曜日と時間帯についてはいかがでしたか。

- |          |            |      |            |
|----------|------------|------|------------|
| 曜日について … | 1 週末が良い。   | ・・・・ | 14 票 (67%) |
|          | 2 平日が良い。   | ・・・・ | 2 票 (10%)  |
|          | 3 どちらでも良い。 | ・・・・ | 5 票 (23%)  |

- 時間帯について…
- |            |     |           |
|------------|-----|-----------|
| 1 日中が良い。   | ・・・ | 10票 (48%) |
| 2 夜が良い。    | ・・・ | 1票 (5%)   |
| 3 どちらでも良い。 | ・・・ | 9票 (42%)  |
| 4 未回答      | ・・・ | 1票 (5%)   |

**(質問 3) 市民討議会の報酬の額についてはいかがでしたか。**

- |                   |     |           |
|-------------------|-----|-----------|
| 1 ちょうど良い。         | ・・・ | 15票 (71%) |
| 2 ちょうど良い額だと思わない。  | ・・・ | 2票 (10%)  |
| 適切な額 4～5千円        | ・・・ | 1票        |
| 5千円               | ・・・ | 1票        |
| 3 報酬は必要ない。        | ・・・ | 3票 (14%)  |
| 4 現金以外の報酬にすべきである。 | ・・・ | 1票 (5%)   |
- (具体的に…特産品をプラスすればPRになる。)

**(質問 4-1) 市民討議会の小テーマは、討議を進める上で適切でしたか。**

- |             |     |           |
|-------------|-----|-----------|
| 1 適切だった。    | ・・・ | 20票 (95%) |
| 2 適切ではなかった。 | ・・・ | 0票 (0%)   |
| 3 未回答       | ・・・ | 1票 (5%)   |

**(質問 4-2) 「適切ではなかった」とお答えになった方は理由をお書きください。**

(理由… )

**(質問 5) 討議グループについて、1グループの人数はいかがでしたか。**

- |           |     |           |
|-----------|-----|-----------|
| 1 多い。     | ・・・ | 0票 (0%)   |
| 2 ちょうど良い。 | ・・・ | 19票 (90%) |
| 3 少ない。    | ・・・ | 2票 (10%)  |

**(質問 6) 討議では自分の意見をきちんと言うことができましたか。**

- |               |     |           |
|---------------|-----|-----------|
| 1 言えた。        | ・・・ | 11票 (52%) |
| 2 まあまあ言えた。    | ・・・ | 10票 (48%) |
| 3 ほとんど言えなかった。 | ・・・ | 0票 (0%)   |

(質問 7) 参加されての充実感をお尋ねいたします。

- |              |                 |
|--------------|-----------------|
| 1 充実していた。    | ..... 18票 (85%) |
| 2 充実していなかった。 | ..... 0票 ( 0%)  |
| 3 どちらでもない。   | ..... 2票 (10%)  |
| 4 未回答        | ..... 1票 ( 5%)  |

(質問 8) 討議していく中で、「五所川原市」に関する考えに変化はありましたか。

- |                          |                 |
|--------------------------|-----------------|
| 1 自分の考えが参加前とくらべて大きく変わった。 | ..... 5票 (23%)  |
| 2 どちらかというようになった。         | ..... 10票 (48%) |
| 3 どちらかというとならなかった。        | ..... 4票 (19%)  |
| 4 自分の考えに変化はまったく起きなかった。   | ..... 2票 (10%)  |

(質問 9) 討議を通して、五所川原市の問題点や今後につながるアイデアが明らかになったと思われませんか。

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1 思う。           | ..... 7票 (33%)  |
| 2 どちらかというと思う。   | ..... 10票 (48%) |
| 3 どちらかというと思わない。 | ..... 3票 (14%)  |
| 4 思わない。         | ..... 1票 ( 5%)  |

(質問 10-1) これまでに「住民懇談会」などの市が主催する集まりに参加したことはありますか。

- |       |                 |
|-------|-----------------|
| 1 ある。 | ..... 1票 ( 5%)  |
| 2 ない。 | ..... 20票 (95%) |

(質問 10-2) 市民討議会にかぎらず、このような市民参加型の事業にまた参加したいですか。

- |                |                 |
|----------------|-----------------|
| 1 参加したい。       | ..... 10票 (48%) |
| 2 都合が付けば参加したい。 | ..... 11票 (52%) |
| 3 参加したくない。     | ..... 0票 ( 0%)  |

(質問 11) 実際に市民討議会に参加されてみて、どうでしたか？なんでも結構ですので感想をお書きください。

- ・直接話し合える場があっていいと思う。そしてそれを行政が活かしてもらえれば。
- ・男女、年齢関係なく話ができるのが良かった。
- ・色々な皆さんの意見が聞けてすごく良かった。五所川原市を良くしたい気持ちは参加した全員思っていると思います。
- ・もっと堅苦しいものを想像していましたが、そういう堅い感じでもなく、色々な方との交流もできてとても楽しかったです。また機会がありましたら参加したいです。
- ・若い方が参加している事に感動した。偏りなきチーム作りが良かった。
- ・もっと五所川原市を知っていこうと思った。以前より地元愛が増えた気がする。
- ・違う世代の話を聞いたのが良かった。
- ・行政はしっかりと市民の声を聞いて実行してほしい。
- ・年齢層の違ういろんな意見が聞けておもしろかった。
- ・自分の言いたいことがあまり言えなかった。
- ・私自身話し方を勉強したい。今日はありがとうございました。
- ・一市民の意見を吸い上げようとする姿勢に敬意を表します。
- ・楽しかったです。参加することで深く考えることがなかったことをグループでいろんな考えがある中で話し合えてよかったです。この話し合いだけで終わらず実行することが大切だと思います。
- ・幅広い年代の方とふれ合いながらまちづくりを考えられてとても楽しかった。
- ・五所川原の将来のことを考えている人がたくさん居る事に驚いた。
- ・話し合いの時間が少なかった。内容は良いと思った。
- ・いろんな方のいろんな指摘、ご意見をうかがうことができて、とても勉強になりました。
- ・青年会議所はこんなに一生懸命なんだ！！と感じました。

-----

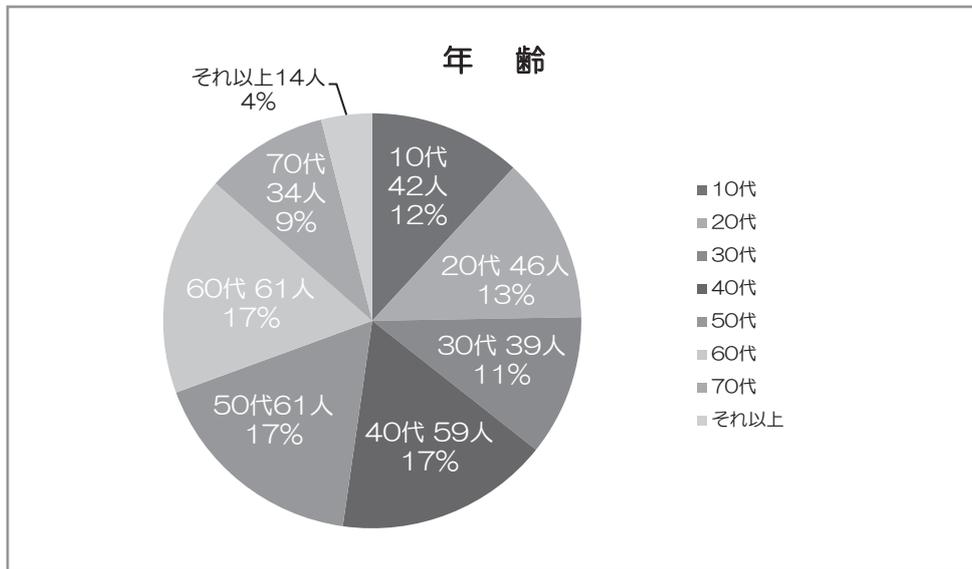
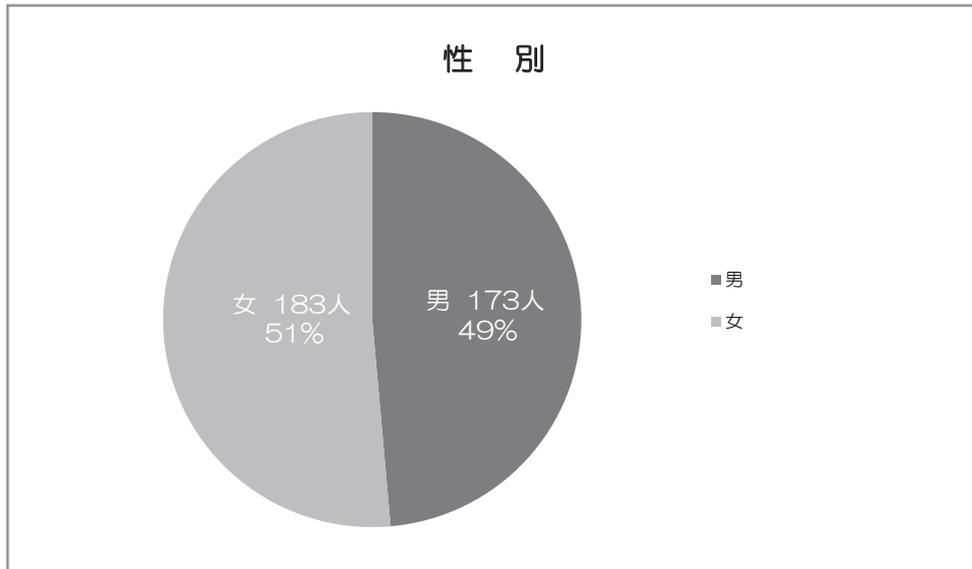
その他、今回の市民討議会に対するご意見やご要望がございましたら、以下にお書き下さい。

- ・青年会議所の方のフォローが良かった。
- ・プロフィールシートを書くときに参考になるデータが同封されていると良い。
- ・討議会を続けて行って、市をもっと良くなるようがんばってください。
- ・この企画はずーと続けてほしいものです。
- ・市民も行政に参加できるんだと思いました。

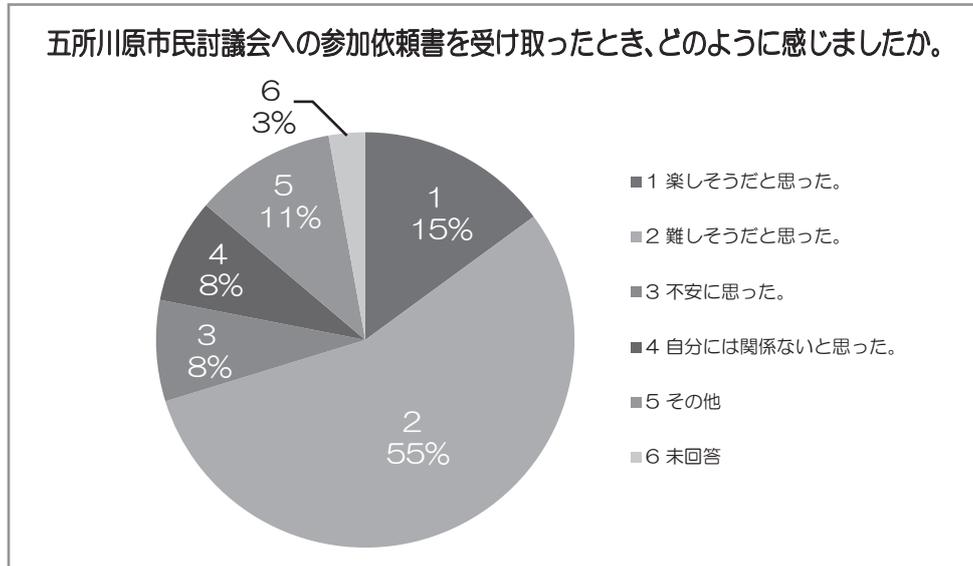
## ご参加いただけない方に対するアンケート結果

356人回答 / 1,500人発送に対して

### 1 あなた自身について



## 2 五所川原市民討議会への参加依頼書を受け取ったとき、どのように感じましたか。

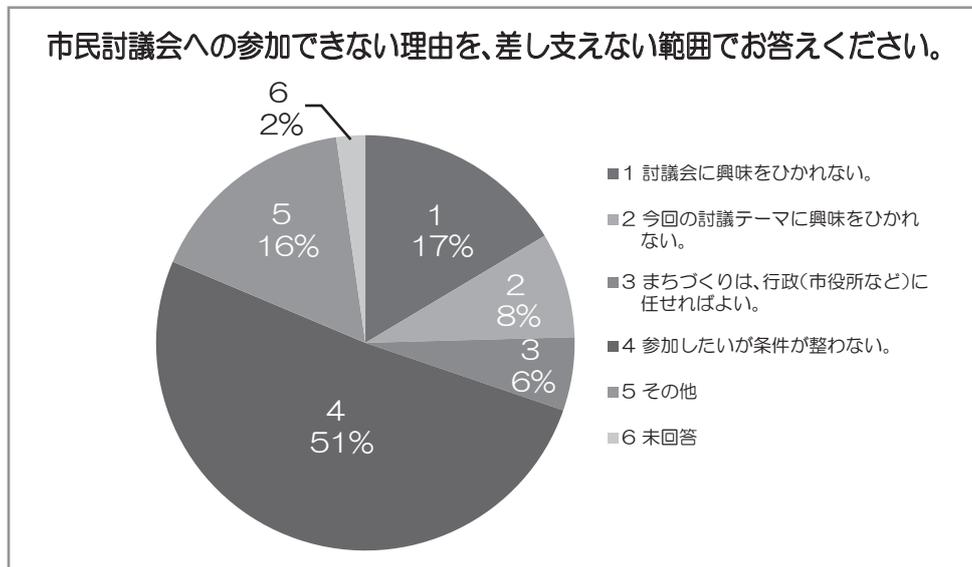


### その他の意見

- 良い企画だと思います
- 成果を期待できない
- 興味がありました
- 有意義だと思った
- 非常に大切な問題だと思った
- 普段考えている事を要望できると考えました
- 良い機会を与えてくれたと思いました
- 地域社会に貢献したいと思った
- 長時間座ってられない
- 仕事で休めない
- 自分より適任者がいると思った
- 硬すぎる
- どんな感じなんだろうという興味
- 無駄なことに財源を使うのか？と思った
- お門違いではないかと思った
- 学生なのであまり関心がない
- 参加できないと思った
- 面倒くさいと思った
- 話し合いだけで終わりそう
- 実践力がなさそう

### 3 市民討議会への参加できない理由を、差し支えない範囲でお答えください。

(複数回答可)

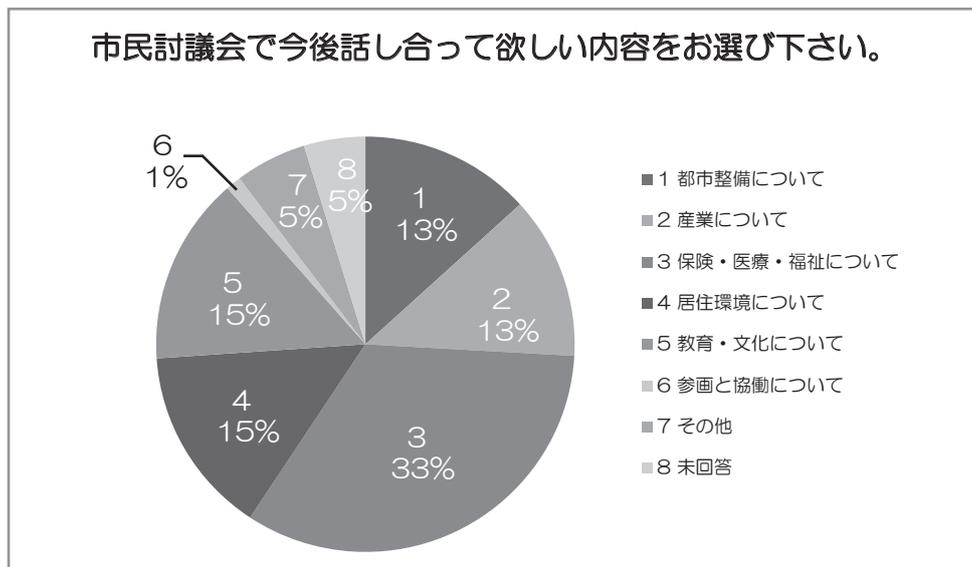


#### その他の意見

- 学校・試験のため
- 学生で県外在住
- 臨月に討議会がありご迷惑をお掛けすることがあっても困る為
- 仕事を休めない
- 何の為に市議会議員がいる？まちの声はその職務の方々が集めるのが仕事だと思う
- 討議会のテーマが具体的な内容が判らない
- 多くの人前に出て発言することがこわい
- 3時間ちょっとで討議の意見がまとまるのかという懸念の為
- 体調不良のため
- 土曜日は休みでない
- 時間に余裕がない
- 性格上、自分の意見を言うことが苦手
- 介護老人のため、家を空けられない
- 若い人を選んでほしいため
- 有識者の意見を取り入れてほしいから
- 住んで間もないため
- とても良い試みだと思います。市民に反映して頂きたいです
- 冠婚葬祭
- 病院通いで一人で行動できない
- 自宅に介護が必要な人がいるため

- 高齢のためテーマが難しく討議できないと思った
- 日程が合わないため
- 参加したいと思うが体力がついていかない
- 前に孫が参加して討議会のテーマが難しいと言っている
- 老人のため出席が面倒
- 討議会テーマに対しての自分の意見がまとまってない
- 他市町村でまちづくりを担当しており参加はどうかと思う。転勤も多く”市民”なのかと感じている

#### 4 市民討議会で今後話し合っ欲しい内容をお選び下さい。



#### その他の意見

- 低所得、高齢者の医療費について
- 市の中心部だけでなく下水道の整備を望む。高齢者や子供にやさしい環境整備をしてほしい（住みやすい環境整備）
- 若者が高収入で働くことができる会社の設立
- 税金
- 就労・特に若い人
- 分からない
- 金木・市浦地区の都市整備について
- 何も変わらないからどうでもよい
- 本町や町の中が寂しいのでどうにかならないか
- 市の財政
- 人口の流出をどう考えているのか

- 金木、市浦地区について
- 高齢化に伴う冬の除雪対策や支援体制など
- 道路が悪い（アスファルト）
- 少子高齢化
- 五所川原駅周辺地域の住民の活用方法と駅利用者に対する空地の無償貸出し
- 子育てに住みやすいまちづくり
- 税金について
- 下水道の整備を多くしてほしい
- 農業振興について
- 猫のフンとおしっこに悩むものです（芦野団地）
- 後継者が整わないことがついには空き家が増えていろいろな面で不安な現状等も
- 財政の健全化
- 冬の除雪について
- 若い人の職場・賃金について
- 不正や汚職について

---

5 問4について具体的に話し合ってみたいテーマがございましたら記載してください。

- 若い人たちの働く場をもっと多く増やして住みよいまちにしてもらいたいです
- がん疾患の手術・抗がん剤治療について
- 定年退職者を地域活性化活動に参加させるための方法
- コンサートなどの催し物を増やして欲しい
- 患者さん目線でもっと話を聞いてほしいと思います
- 駅前の寂しさは異常です。活気が欲しい
- 若い人たちがどんどん働ける場所があると人が集まると思います。そして活性があるとと思います
- 立佞武多の館を中心にどう街並みを整備していくのか何をしたいのか見えてきません
- 毎年の雪対策、除雪、融雪溝などの設置について
- 大町商店街の活性化
- 全ての税金について
- 包括ケアシステム
- 企業誘致
- まちのコンパクト化
- 増え続ける老人問題

- 若者に何を残していくか
- スポーツ活動の振興
- 周辺と比べて整備が遅れていることについて
- これからの農業
- 駅利用者へ駐車場の提供方法（空地の有効活用）
- 住み心地のよいまちづくり
- 冬期間の交通（道路）の環境整備について
- 雪対策
- いかに住みたいと思えるまちになるか
- 五所川原の税金について
- 子育てしやすいまちづくりについて
- 市浦地区の発展をどうするべきか
- 市の中心部だけでなく下水道の整備を望む。高齢者や子供にやさしい環境整備をしてほしい（住みやすい環境整備）
- 五所川原市内だけでなく、金木地区・市浦地区の整備もして欲しい
- 若い世代向けの産業、まち並みに。魅力的な都市に
- 駅前の活性化
- 市民の健康を維持するには ～長生きしよう～
- 公園、体育施設の整備・中心商店街の活性化
- 学校教育・教師のあり方
- たちねぶたの館の周辺に空いた土地や、空いている建物はどうするのか？
- ねぶたシーズン以外のまちの活性化
- 市のあすなろ太鼓はいつ出陣するのか
- 雇用について（市民が仕事不足で県外に職を求めている）
- 就職先の拡大について
- 雇用の場の具体的な話
- 雇用について
- 雇用の場として産業を考える
- 若い人の雇用の場を増やす方法
- 安定した雇用給与の問題で市外県外へ出て行くどうすればよいか
- 若者が高収入で働くことができる会社の設立
- 学校生活でのイジメ問題
- 低所得、高齢者の医療費について

- 五所川原市の小児科の実態、保育料高額、遊具の少なさ
- 保険医療費について
- 障害者の住みよいまちづくり
- 母子家庭について ・ 産婦人科について ・ 介護について
- 子供の医療費が少ない。負担にならないか

---

## 6 自由意見（人口減少問題を含めて、ご意見等があれば記入してください）

- 認知症が重度になっており、参加できません
- ・ 五所川原市としては、大変市民生活向上のために努力されていると思う
  - ・ 美術館的なものが、秋田県民より遅れてはいると思う（立佞武多の館は立派ですが）
  - ・ 陸上競技場が市内にないのが残念
- 働ける場所があれば、又、まちに魅力があれば、誰も外にいきません
  - ①ひとにやさしい ②環境がよい ③働ける場所がある ④教育に市民が関心をもっている…の「みんなにやさしいたのしいまちづくり」に一丸となって市民が皆意識をもつようなまちをつくっていきましょう
- 高校を卒業したら先祖伝来の土地を後にする子供達。この状況は政治の不作為によるもので、国の問題である
  - 決め手は言い古されてはいるが、製造業の国内操業を可能にする電気料金と法人税の減税
- 市の財政が心配です
  1. 安定した仕事の場合
  2. 賃金（安定した）問題
  3. 若い人たちが、結婚出来、子供の産める環境づくりが大事かと思われま
- 地元の仕事がないので若い人は県外に出ていってしまう
- ・ 人口減少は政治の貧困の何ものでもない。市長自ら先進地に学び政治や意識の議員の教育と市政発展に日夜腐心すべきと考える。先般亡くなられたむつ市長に学ぶべき
  - ・ 人口増は、経済と直接関係する。経済にゆとりある家庭に子どもが多い。産業の活性化を図り家庭にゆとりをもたせたい
  - ・ 地域から、教育の拠点でもある学校をなくしては、住む人の心のよりどころを消してしまう。経済優先でなく、視点を変えて、やる気をおこす政策を講ずるべきである
- 自宅周辺、町内に小学生がいらない。若い人達が住めるように、仕事があればいいね水田単作だけでは難しいね
- 人口が減少することは、市長にその気が無いため若者が市を見限ったことと思う（市長は、公約『産業の誘導と発展』を実行していないと思うし、農業を離れる原因と思う。青年会議所も五所川原市をどうするのか、役員でもっと考えてほしい）
  - ※市長べったりの会議所では未来は無いと思う
  - ※国保税等の滞納が2億以上？他市町村並に厳しい対応をすれば補助金以外に思い切った市政ができると思う

- 暮らしやすさ、住みやすさは誰もの願いであり、それらが満たされてれば深刻な人口減少は起きないと思う。暮らしやすさ、住みやすさの条件とは次のものと考える
  1. 雇用の充実と確保
  2. 治安の良さ、交通ルールマナーの良さ
  3. 子供への配慮  
託児所、保育園の充実
  4. 老人への配慮  
老人ホーム等の充実
  5. 生活環境  
病院、金融機関、スーパー等の充実
  6. 政治家の姿勢  
議員さん方の五所川原市に対する将来ビジョンが見えない。又、クリーンな市民のための政治活動を行ってほしい
  7. 観光  
私的な考えで、実現性に乏しいと思うが、立佞武多を津軽鉄道で五所川原～金木間の運行
- 市内の税金（家）が高いし、私達年金暮らしのきびしさを見ているので孫達も生活できないから結婚をしないと言う。働く所も少なく、社員になれないパートでは生活は難しいと言う。それに、五所川原市内の祭り事も少なくなり、温かみが少なくなってきた、助け合って生きていない。社長・幹部だけ良くて下の社員は苦しいと思う
- 1. 有効求人倍率が全国最低レベル  
企業誘致と雇用対策をもっと強化する様に！
- 2. 医療費を中学校迄無料にする  
若者世帯の家計の負担を軽くして定住を促る
- 全国各地で人口の減少が予測されている  
将来五所川原市と中泊町の関係はどのようになるのが望ましいか
- 五所川原市人口減で市全体に人が永住させる方法と子どもがたくさんいる時代になる方法とか。私達の時代は非常に楽しくらせる時代で、一家に子供は6人から12人もくらした時代です。今は年金もだんだん少なくなって来ているようです。若い方の仕事もなく、これも問題で市役所の方も大変ですが、がんばって市の事を後宜しくお願い致します
- 若い人達が生活できる様に成れば、人口流出は起こりにくいと思われます  
そして、リターン者を増やすにはどうするのか  
都会での生活は、決して生易しいものではありませんので、戻りたいと思っている人も多く有ると思うのですが
- 他県との交流と協力（市町村）
- かつて、日本の人口は5000万人位が適当であると何かの記事で読みました  
この狭い国土ならさもありなんと、私は思いました  
人口が少ないと経済が立ちゆかなくなるとするのは幻想だと思えます。今の日本は社会主義的な国家だと言われていますが、一人一人が国に頼るのではなく、自分が何をすべきか考えて行かなければならないと思えます。とりあえず、若者に自立と生活力をつけさせる教育が必要なのではないでしょうか。親に甘えていてる若者が多いと思いました。親も甘いからでしようが…

- 今、どこの村へ行っても、0才～6才の子供があまり見かけられない。これは若い夫婦が、子供を育てるのにあまりにも金がかかりすぎて、育てる自信がなく、そのために産まない人が多い。それが少子化につながっている。だから、市は独自の支援を若者にする様な予算を組む事を願う
- ある方は、出産を希望したいが経済的に余裕がない（パートで共働き）。たとえ出産をしたとしても子供の教育にもお金がかかる。将来に希望がもてないという声を聞いたことがある。このような場合どうしたら良いのか、正社員にでもなればいいのか？
- ①この度、孫が生まれたのだが、3～4ヶ月健診のために、わざわざ市浦→五所川原まで行かなければならないとのことで、とても大変そうだった。まだ幼い子を雪の中1時間も車に乗せて、母子共に疲れきって帰ってきた。せめて3～4ヶ月健診だけでも、市浦は市浦、金木は金木など地区別にできないものか。  
②以前相内地区の相内橋の所で、通学中の小学生が車と接触しそうになったのを見てヒヤッとした。通学路でもあるのに、バス通りもあるし、急カーブでもとても危険なので改善できないか。
- 若い人達が暮らせる状況でないのです
- 人口減少には歯止めはむりだと思う
- 1. 地域格差の解消
  - ・旧金木町、旧市浦村の振興策
  - ・毎年度上記の重点事業を策定すると共にマスメディアを通してのPR活用
- 2. モデル事業、先進事業の積極的な推進
  - ・高率の補助金が得られること
  - ・先取精神は皆無に見受けられること
- 賃金が安い為安心して子供を産めない状況だと思う
- 五所川原市の場合は人口の自然生態の減少もあるが社会動態の減が著しい。働く場が少ないため人口流出が多いのが人口減少の根本的要因である。市長のトップセールス、市職員のこれまで以上のやる気がなければ企業誘致は難しい。第4次産業の振興も積極的に取り組んでほしい。そのための行政の“呼び水”的施策も具現化してほしい
- 仕事が無い！賃金が安い！
- 討議するなら、ビジョンを示せ。まず集まるだけで何が出るのか？
- 働く場所、職場が多ければ最良と思います  
都市計画で市中心部が整備されていますが、何を優先に進めているかが今一理解できかねる  
例えば、商店街の活性化、観光、市民の生活基盤の向上、交通網の整備等  
市中心部へ市民が足を運びやすい環境作りと幼児に対する保育料の見直しと削減等、生活に負担になっているものを緩和する方法もあと思います
- 人口減少について、子育て支援等の各種施策では根本的な問題解決策になっていない  
国民が安心し、将来に希望を持てる国になることと、上辺だけの施策で国民を過保護にしているのでは意味が違う
- 市民オンブズマンの存在は？
- 県内に仕事

- 若い人の働く場所がないので若い人は県外に出てしまうので、このままでは人口は減少して行くだけです
- 無作為抽出して参加する事も良いが、テーマに対する参加者の意見のレベルが違いすぎなければ良いと不安である  
テーマを決めて、それに対してある程度有識者を集って討論してはいかがでしょうか
- 人口減少と一口に言っても、社会全体の問題であり、年金制度にも関わるし、また昔とちがい現在は、子供が少子化で、多く育てれない環境であると思います。それに、今社会人となって働いても派遣、アルバイト等、やすい賃金で生活していかねばならず、一戸建てのマイホームは夢のまた夢であります。一概に人口減少を考えると、社会全体の政治の、世の中全般の大きな問題であり、我々が討論しても解決とはほど遠いと思います
- 職場が少ない。若者の雇用問題
- 産業、はたらく場が増えることが一番。学園都市、大学キャンパスなどあると若い人がよってくるかも
- 金木町で生まれ育ち、その後30年間、下北・むつそして青森市に居住してみて、冬期間（地吹雪）を除いては、住み易いところであると思う。でも、この30年間で何が変わったのか、都会（東京）の交通（道路）の整備とIT活用（GPSなど）と比較して、本当に遅れてしまった  
子供の数は4分の1、政治や学者、行政は何をしてきたのか
- 何度も経験し、五所川原市から出ようと考えています。子供の救急。24h体制がひどい状態で毎回、弘前、青森へ行っています。つがる総合病院（旧西北中央病院）の夜は研修医。高熱、嘔吐、頭痛で栄養剤のみの点滴。朝までまっていつもの小児科へ。五所川原市は安心して住める場所でない。子供に優しいまちでないとい人口減少は仕方ないでしょう
- 雇用、子育て環境が整わないと、人口減少問題は解決できないと思います
- 予算消化のための行政政策をやめ、海も山も近い魅力的なまちである事を積極的にアピールするような、子供もお年寄りも安心して生活できるまちづくり。ムダな道路工事、ハコ物ありきの政策を控える
- 市のエライ人、公務員が私利私欲をすてないかぎり、なにを言っても無駄！  
これからも五所川原市は、悪くなることはあっても、良くなることは絶対がない
- 周辺市町村と比較して、行政サービスで、見劣りする所、検証し、改善してもらえれば良いのでは。一部知人がそんな理由もあり、転出（新築）いたしました
- 一般からの意見をすい上げようというモーション的な事であろうがそれに対して答える気はない  
今、日本の各自治体の中でモデリングできる所はあくさんあるはずだ。まず、考えるべき人が行動を起こすべき。こういった形だけのものは、止めて頂きたい
- 現在の市は箱物にばかり金を使っている。病院にしてもなぜ市役所の場所に建てたのか意味がわからない。何のための津軽道を造ったのか。病院は津軽道に近くなければ広域病院としての役目が果たせないのではないか。市長の懐具合であんな不便な場所に建てたとしか思えない。市役所は西北病院の場所に造るみたいだがもうすこし若者が安心してくらせる雇用を場所を提供してもらいたい。ちなみに私自身賃金が安いので職場は青森で働いています。本当は五所川原で働きたいが…

- 道路状況が、外の市に比べ、悪いと思う（入りこんでいて、(住宅地) 行き止まりなどある）
- 不況が解消されなければ始まらない
- 青森県の補助をもらって専門会社に委託し五所川原主催の婚活パーティーを毎月開催（備考）あおもり出会いサポートセンターの五所川原版
- 子供が居ます。つがる市などの近くのまちでは、15才まで、医療費が無料なのに、なぜ五所川原市は、ちがうのだらうと思います。仕事をする事が、きびしい五所川原で、生活も大変です。子供の事も小さければ小さいほど病気になりやすく、病院にも行く事が多い。近隣に越そうかを考えたくになります
- 転勤のある身なので、自分にはあまり関係無いように思えたので、参加は遠慮します
- 人口減少に関しては、市、市役所職員が市民から取れるだけ税を取ろうとしてるのが見え見えなのでどうしようもないこと  
税金に対してもそうだが病院費用も高く、これだと隣の市町村に行った方が安く、もっと親切にしてもらえる  
つがる総合病院はある意味失敗だと思う。もう終わってる市
- 市町村合併により、生活水準が向上しているのは旧五所川原市であり、旧金木町、旧市浦村には一体いつ還元してくれるのか？旧五所川原市民の生活を潤す為だけの市町村合併だったとしか思えない現状である。もっと市民の声に耳を傾ける市政をもとめる。もっと税金を有効活用して欲しい
- 仕事上県内を様々見ています。五所川原市に住んでまだ、1年ですが、今まで住んできた土地で、ゴミに関するものが、一番だめです（燃やせないゴミがなぜ2週間に1回なのか？）
- 国保税や水道料金がなくて、若年層が住むには大変な市になっていると思う  
誰が市長になってもこの市は変わらんだろうなとは思う
- 五所川原市に住み続けたいと思っても、勤め先が無いと市外、又は県外へ行かなければならなくなる  
雇用環境を最優先に改善しないと、人口減少だけでなく、様々な問題が生じるのではないかと思う
- 若年層の県外流出を解決しなければならないと思います
- 仕事がないから、皆県外へ行ってしまうので、もっと仕事を増やせば良いと思う  
それと五所川原市内は道路がボロボロで状態が悪く、危険なため、改善して頂きたい
- 就労の問題が人口減少の大きな要因であると思います。そのため、就職先の拡大などの取り組みが必要だと思えます
- 若い人は増えず店が閉まっても新しい店はなかなか増えない（金木地区）  
車がある人は大抵買い物も通院も市内に向かう  
商業施設に関しては仕方ないとしても、税金・子育てなどについて若い人が留まったり誘致できるような方針を取って欲しい
- 市外からどうやって人を移住できるか考えてほしい  
合併してから市浦地区が過疎化の一途をたどっていると思っている

- 仕事で五所川原に住んでいるが、興味をひかれないです  
全然知らない人といきなり討議会は難しそうです
- 人口減少問題のためにも、もっと育児がしやすい地域、環境をつくってあげばよいと思いました
- 謝礼1人あたり¥3,000×30人（参加人数）ということで単純に¥90,000かかるわけですがその価値があるのか疑問に思いました
- 若い人の働く場が少ない
- 働く所が少なく、賃金も安い為、人口は減少して行くと思います。大学受験を控えています、東京の大学へ行くつもりでいます。企業誘致をしたり休耕地を貸し出したりして、もっと人口を増やして行かなければ、人口は増えて行かないと思います
- この度は、ご指名いただき有難うございました。自分は87歳8ヶ月になる高齢者です。難しい事を考えるには無理です。妻と2人で、毎日の生活に追われ、どうしたら1日でも生きられるか、頑張っています。1944年軍隊に入り最後に戦車に特攻隊で終戦で生き残りである今は、唯々生きる事に夢中である。関係のない事を記入して申し訳ありません。お許し下さい。難聴者です
- 先日伊藤淳夫先生が若者の結婚の壁ということを新聞に掲載されていましたが  
これは正規社員と非正規社員との年収の差、非正規社員は正規社員の年収の半分にも満たないことを知りました  
このことについては悲しいことだと思います  
将来の人口減少は地元で若者を定住させ雇用の場を与えることです。6月18日（水）の東奥日報の朝刊を読んでも「雇用を考えると五所川原市には住めない観光やイベントより企業誘致や雇用対策に予算を」このようなことをかいてありました  
非常に厳しい意見だと思います  
あたりを見まわしても、住宅の空地、若者が職につけず家にひそんでいるのに気がつきます。地元で雇用の場を与えてほしいと思っています  
そういうことによって、若者が地元で定住し、地元で雇用の場を与えることによって、結婚の道も明るくなり、幼児、子供達が増え、少子化対策も解消されます
- 今住んでいる所は、小学校とか保育園は近場で良いと思うけど、ほとんどが1人暮らしの年寄りが多い。何かあった時が心配です
- 地域の基幹産業である農業振興を図り、農業法人等を増やし若い人が働ける場を作るよう行政が指導してもらいたい
- 今回のテーマに関しては、とても心配な事ですし大事な事だと思います  
若い人の未婚者が多い事、常に気になります。教育にも関係あるのではないかと案じます
- 「人口減少」については、私が20才代から、すでに聞かされてきました。長い時間を必要とする問題で、すぐ改善とはいかないとは思いますが、頑張って下さい。介護者がいる為、仕事も早目にあきらめました。何かしたいとは思いますが、残念です
- メロスマラソンは是非続けて欲しい。地元でやるのだから、五所川原市内の各学校に呼びかけて、子供達の参加をうながして下さい。先日、平川市のだけのコマラソンに行ってみましたが、子供達の参加の多さにびっくりしました。メロスマラソンは、芦野公園付近で1本化して欲しい

- 都市整備と財政の健全化
  - ・ 年々町が都市整備によりきれいになってきていることを実感しています。財政の健全化を図りさらなる努力を積み重ねていくべき……
  - ・ 市民を巻き込んだ清掃活動等、又子供達への啓蒙も大事
  - ・ 最近感じる事。図書館の日本庭園、荒れ放題になっています。作りっぱなしで整備のため予算がつかないものは、最初から作るべきではない。この手のものが多すぎる（財政の健全化と関連して）→いわゆる政治がらみ→いつまでたっても無くならない
- 夫婦共働き世帯で、子育てする上で頼りの保育所ですが、保育料の高いのには驚きです。保育料を支払うために働いている分けてではないのに、若い夫婦が頑張っているだけに余裕が無いのは第二子を考えられないことにつながると思います
- 若い人達の働く場があったら人口減少問題も良い方にいくのではないかと思います
- 空地が多すぎる（まちなか）
  - ・ 五所川原ってもっと活気あるまちだと思ったとお客様より言われ、ショックでした。
- 子どもが県外にいる場合、老齢の親が五所川原にいても地元に戻って面倒見たくても働く場所がないので帰れないのが実情だそうです。もっと働く場所があれば、人口減少が緩和できるかもしれません
- 1. もっと働ける場所がほしい
  1. 時給をもう少しあげてほしい
  1. 市民討議会に参加したかったけど、どうしても行けなくて残念だと思っています。今後、いい機会がありましたら、その時はよろしくお願いします
- 介護福祉の充実
  - ・ 就学前（5才児）健診の実施
- 福祉の充実が第一だと思います。一人暮らしの老人、でも、親族が市内に住んでいるのに、何かしらの事情で一緒に暮らせない。一緒に暮らしていても、介護している人が孤立していった状態があります。地元で働く難しさは、もちろんあり、若手は、近隣のまちで働いています。だったら、住みやすいまち、通勤に便利なまち、保育園の充実、大町での買い物の不便さ、一つ一つですが。日曜・祝日の大町は、淋しすぎます
- 働く場所、賃金等が安いので、結婚したくてもできない方がいると思います。結婚しても子供が出来たら、仕事をやめないといけないなどさまざまな理由があると思う。働く場所がないと、五所川原からいなくなるなどの理由で人口が減少していくのだと思う
- 高齢化社会に基づいて、老人が生活しやすい制度を作りたいというのが、今後の課題だと思います。他県においては、すばらしい制度がいろいろ取り入れられ、老人が生き生き生活しています
- 今、少子化と言われてはいますが、これからの世代、五所川原は、仕事・働く環境が少ないから、生活に余裕がないから、子どもを作らない人が多いかも……それも、深刻だと思います

- 住みやすい環境でないので人口が減っている
  - 医療が高い
  - 福祉の医療負担
  - 若い人の安定した仕事がなく『給料』が安くこれでは結婚して生活が出来ない人が多いのではないか！！
  - 子供を産んでも安心して預けられる場所、病院の負担、会社の理解がなければ、2人3人と子供が産めないと思います
- 青年層（若者）の雇用先がないため、県外への流出があると思います  
企業誘致に取り組んで欲しい  
虫おくりと火まつりー伝統行事であるのに、虫車の参加が少なく先が懸念される。  
河川敷での、火まつりの様子は観客席から見えにくく、様子が伝わらない。存続等のためにも再考してほしい
- 今の市内は、一部を除きまったく、活気がない！！  
私が学生のころの様な生きているまちづくりをしてほしい！  
人も車もあふれていた時代があったのだから……  
市内に行っても、楽しめる所が少なすぎると思う（エルムは別として）  
近くに住んでいる市民でさえそう思うのだから、遠くからわざわざ来る人はいないと思う
- 働く場を増やす（工業…「モノ」を生産する場）
- 働く場所が無い！  
賃金の問題が大きい！  
働けども、税金で取られてしまう世の中を変えてほしい！
- 地元で働きたいと思っている若い人達もたくさんいると思います  
保育園料を無料にするなど共働きの夫婦にとって子育てしやすい環境になったら人口減少を抑えられると思います
- スポーツのできる施設があれば良いと思う（サッカー場等）  
子育てしている人にもっと支援できる環境になってほしい
- まちの活性化を進める地域、人、いきがいをつくるまち
  - 健全な行財政に守られたまち
  - 産業の振興と魅力あるまち
  - 人口の流入や安定化の促進
- つがる市では、医療費が無料（子供）  
五所川原市は何にとりくんでいるのか、子育て世代として関心があります
- もっとキレイなまちにしてほしい！！  
センスがない！！、特に駅！！、まち全体をオシャレに！！  
今の雰囲気は、“ガラが悪い”、“知的さがない”、“地味”、“暗い”
- 古いものを切りすてるのではなくて、大切にすることが必要だと思う  
税金が高い。安くすればいい。働く所がない  
市の財産をむだにしないで、大切に守って欲しい。もったいない
- 議員、公務員減給、報酬カット、ボーナスカットを行い、まちづくりは始まる

- 人口減少の原因としては、結婚する人が減ったという事もあるだろうから、結婚したくなる環境を作る（たとえば婚活の手伝いになるようなプランを計画するとか）という事も考えていかななくてはならないと思います  
あと意外に多いのは不妊で悩んでいるご夫婦だと思うので、不妊治療に対しての医療費の負担を軽くするとか、相談しやすい環境など、まだまだ改良の余地はたくさんあるのでは、と思います
- 五所川原市内、特に『立佞武多の館』周辺は五所川原の顔だとは思いますが、お金を使い過ぎ！！  
観光客よりも、住んでいる五所川原市民に役立つ事にお金を使って下さい。小学校、中学校、保育園内で設備が故障しても予算がないからなどと聞きます。  
五所川原市内だけでなく、金木・市浦にも色々な面で力を入れて下さい。
- 転勤が多くアパート住まいだが、排他的であり、受け入れない傾向が強いように感じる（私の住所地がたまたまそうなのか？）過干渉も困るがここまでだと、定住に結びつきづらいように思う。私のような転勤族が終のすみかとして選べるよう市民の意識改革も必要ではないか
- 子育てをするにあたっての様々な負担をせめて義務教育が終わるまで負担を市の方でしてほしい
  - ・産科の充実　・夜間、休日の救急病院の対応　・病児保育の充実
  - ・医療費　・保育料の見直し　等……
 親も仕事でその親も仕事に出ていて家に大人がいない時代です  
昔と違い、そうしないと生活できない世の中で子育て環境が充実していなければ子どもも増えないと思います。少なからずこれが人口減少軽減につながると思います。
- 人口減少問題について  
総合病院は平日の午前中だけ、しかもとても混んでいる。弘前市へ通院している人もいる。個人病院を増やして欲しい。選択肢が欲しい  
乳幼児医療費給付制度の年齢制限を広げてほしいし、償還払いという形でなく、最初から無料にしてはどうか、若い人が子どもを持ちたいと思える環境、支援は何か、また人口減少（少子化）に市長（市）はどうすればよいと考えているか知りたい
- 五所川原市は他の市に比べ財政がきびしいからか、隣の市では受けれた手当てが、五所川原市で受けられなかったりで、びっくりしました
- 若い人達は低収入の人がほとんどです。これから超高齢化になり、生産年齢層は減少していき、しかも低収入。悪環境です。若者向け、若い家族向けの市営住宅税金も高くなければ、仕事は他市町村でも住まいは五所川原にしたいという人が増えるかもしれません。立佞武多をこれからも続けるなら、中国人にアピールして特産品等たくさん買ってもらえればいいと思います。莫大な税金が無駄になる様なイベントはなくなっても構いません。市民の生活の為に税金を使って下さい
- 最近子供をねらった犯罪が多いのにもかかわらず、学童保育で小学校3年生までしかみていただけないなど問題だと思います  
・市民に対しての税金が高い。他の市に比べてそうだと思います。サービスも悪いと思います。見直していただきたいです
- 未来への希望が持てる五所川原であってほしいと思っています  
そのためにも優しい人の心が広がっている五所川原であってほしいと思います

- 小児科専門医が市内には少なく、また、産婦人科医、助産院も少ないため、出産等を自分で選択した病院で納得の出来るものになりたいと考えた時に、叶わない。また、トラブル等があってもかけつけて行くことが出来ないことも、人口減少問題の1つではと思う
  - これから先の医療、福祉、保健等が良くなり、より良く子育てをしていける環境がととのえば、人口が増えていくのではないか
  - 消費税等ばかりが上がっても、たいへん困る
- 妊婦や幼児の方も高齢者と同じくらいの事があればいいのでは？  
妊婦にもバスなどの乗り物や出かけ先での妊婦&幼児特権のようなものがあれば、いいのでは？  
幼児だけじゃなく子供の年齢は中学生くらいのもので、母子（父子）家庭のところには、高校までのかかる分も免除にするくらいの太っ腹っていうくらいは？
- 世の中には、土・日仕事で休めない人もいます。公務員の皆様に合わせた開催は、すこし考えた方がいいのでは？
- 市でどうこう、という話ではないのですが、昭和の頃と違って、夫の収入だけで生活していくのがむずかしく共働きをしないと生活していけない状況な限り、数多く妊娠・出産をするのは無理なので、（何においても負担が大きい）人口は増えにくいのが当然だと思います  
たとえ、環境が整ったとしても、外で仕事して、家の家事もして、子供の世話をし、親の世話、という日々は子の人数が多いほど、充実しつつも疲労も高まると思います。子を何人も産み育てていきたいという余裕は、なかなか無いのではないのでしょうか。景気の回復を望みます
- 五所川原市は子供の医療費負担の所得制限の金額が低すぎる。人口を増やしたいのであれば、小学校まで一率タダにすべき。子供を沢山産みたくても、その後の負担が増えるのが目にみえているので、皆子供を1人又は2人でおえてしまうのが現状。子育て支援を増やすよりまずは医療費！！
- 討議会を開くよりも、もっと多くの方にアンケートをとった方が多く意見を出して頂けると思います
- 1, 500人の中に選んでいただきありがとうございます  
人口減少の原因としては、高卒の人が県外へ出てしまうこと、それからそのことに伴う新生児の減少が考えられます  
何ととっても就職先がないことが一番の問題だと思うので、増やすような方策がアイデアとして出せればと思います
- 五所川原市も医療費の窓口負担0にしてほしい
  - 学童保育のような施設を増やしてほしい（学童保育3年生までなので、6年生まで見てほしい）
- 働く場所と給料が安いので、都会にいつてしまう。物価も都会と変わらないのに収入が少ない
  - 買い物する場所や遊べる場所が少ない
  - 駅前をもっと元気にしてほしい
  - アウトレット等あると良い
  - 松島小の近くは子どもたちが歩くのに歩道が狭いしあぶない。田んぼに落ちそう。子どもが安心して住める場所にしてほしい

- 同じ問題を抱えていた都市の成功例を参考にして解決策を考えた方が良いと思います
- 働く場の確保と交通の利便性
- 商業施設をもっと増やして欲しいです  
こういう所を増やしてもらえると、五所川原に遊びに来る人も増えるし、働く場所も増えるので、五所川原に人も留まるとおもいます
- ・ 子供を育てるのに保育料などもっと安くなればイイと思う  
・ 2人以上の子供が居る家庭への支援をもっとふやして欲しい
- 安定した仕事もないのに五所川原に住みたいと思えない。住みたくても生活していけない気がして不安
- 魅力あるまちづくりを進めて行かなければならないと思います  
住みたいと思うポイントが不足しているように感じます  
(子育て支援やお年寄りに対する支援など)  
立佞武多や観光にばかりお金をかけているように感じられるので、もう少し住民の住環境に配慮して欲しいです
- 低所得者及び高齢者の方の医療費免除することによって低所得者でも住みやすいまちになると思う  
母・父子家庭の方々が住みやすくしていけば、いいまちづくりになると思います
- ・ 小、中学校の統合により、建物を今後そうするのか？  
・ 市内だけでなく、旧金木、市浦地区の環境についても検討すべき  
・ 市議会の議員について定数、給料等検討が必要と思う。一般市民の生活環境も考えるべきではないか？
- 他県に進学中の為、五所川原市に居住しておりません
- 若い人達が安心して定住できる産業（企業誘致）を増やさないと、人口減少に歯止めがかからないと思います

# 人口減対策知恵絞る

## 市民30人が参加し討議会

五所川原

市民がまちづくりに  
ついてアイデアを出し  
合う五所川原市民討議  
会が7月26日、同市の  
五所川原市民学習情報  
センターで行われた。  
18～77歳の男女約30人  
が参加し「人口減少」を  
テーマに話し合った。

討議会は同市と五所  
川原青年会議所がパー  
トナーシップ協定に基  
づき、市民・民間団体  
行政が一体となってま  
ちづくりについて考え  
よつと企画。討議会で  
出た意見は市総合計画  
に取り入れられる。  
弘前大学大学院地域  
社会研究科の平井太郎  
准教授がコーディネー  
ターを務めた。参加者  
は5グループに分かれ  
人口減少について原因  
を考えた。

各グループが最後に  
対策案を発表。「学校  
で住民参加型の授業を  
行い、発表会を開く」と話した。(佐藤詩織)



グループごとに「人口減少」について話し合った参加者たち

「休耕田や空き家を活  
用して移住家族を受け  
入れ、農業体験を指導  
する」「廃校を利用し  
た総合宿泊施設をつく  
る」などの意見が出た。  
参加者の藤元温子さ  
ん(25)は「人口減少な  
んで普段はあまり考え  
ないので、他の人の意  
見を聞いて勉強になっ  
た。今智夫さん(77)は  
「小さな意見も取り上  
げてもらいたい、うれし  
い」と話した。

# 人口減打開へ できることは

人口減少社会で市民ができることは何か。厳しい雇用情勢や若世代の流出、出生数減少、働かざる世代の高死率など、本県の課題が集約されている。中でも過言ではない西北五地域、その問題に市民レベルで向き合おうと、五所川原市で「人口減少」をテーマにした市民討議会が開かれた。社会の多くの要因が絡む問題を話し合う中で、住民それぞれが問題意識を共有し、課題解決を急ぐ必要も浮き彫りになった。

## 五所川原で市民討議会

討議会スタート時、人口減少を解決するのは行政では、一般市民にできることがある。だろっかと参加者の男性が首をかしげ、一人暮らしの高齢者の除雪作業を手伝うとか、身近な問題から可能なと懇々と別の女性が意見を述べると、男性も納得したようだった。

## 重要共有の意識問題



## 食生活の改善など提言

問題研究によると、1980年を100とすると、40年には全戸別。大場合の人口推移は、2015年を全国108・1、本県が97・7、五所川原市が94・4、40年には全戸別。6、本県61・2、五所川原市については2者の意識差は市民半分近くまで減少すると予測されている。市民討議会には市と五所川原青年会議所が、1トナードン協定に基づき実施している。参加した60代女性は「若い人の子育てを、自分たちの世代が助けられないか」と思った。開会とまちづくりに取り組み場として開。今回は「人口減少」をテーマに設定したところ、例年より参加に同席する若年層や女性が多かったという。若者が結婚しなくなるとは面白かったと討議会を振り返った。コーディネーターを務めた弘前大学大学院地域社会研究科の平井太朗准教授は、一人口減少は様々な問題が絡み合っており、行政のみでは解決できない。世代や性別を超えて、生活者から解決策を提案してほしい。要は市民討議会のような場的重要性を指摘した。

国立社会福祉・人口

# 市民協働によるまちづくりへ



意見を出し合う参加者の皆さん。  
市の人口減少の要因や対策方法を付せん書き  
こみ、それぞれ分類。  
人口減少予測を覆すためのまちづくりに自分  
たちができる活動を討議結果としてまとめます。

## 市民討議会で 21名が意見を出し合う

青年会議所と市で組織する五所川原市  
民討議会実行委員会が、7月26日、市民  
学習情報センターで市民討議会を開催し  
ました。

市民討議会は、市民協働によるまちづ  
くりを推進するため平成24年度から実施  
しており、今年で3回目。

無作為に抽出した1500名の市民へ  
参加案内書を送付し、参加を希望した45  
名から抽選で決定した21名が「五所川原  
の未来に向けて～人口減少時代を乗り切  
るためのまちづくりを考えよう～」をテ  
ーマに意見を出し合いました。

コーディネーターを務める平井太郎弘  
前大学大学院地域社会研究科准教授から、  
低出生・高死亡率・高社会減という人口  
減少の大きな要因となる課題に対して、

他地域における市民協働による先

進的なまちづくりの情報提供を受  
け討議がスタート。5つのグルー  
プに分かれ、①人口減少の原因に  
ついて考えよう②人口減少に歯止  
めをかけるためには③私たちに  
できる人口減少対策という順序に  
沿って五所川原市の未来に向けた

話し合いを行いました。さまざま  
な立場から市民目線による「私た  
ちができる人口減少対策」のアイ  
ディアを議論し、最後にグルー  
プごとに討議結果を発表しました

(概要は下表参照)。

平井准教授は、急速に進行する  
人口減少は地域社会の存立基盤に  
かかる問題であることに触れ  
「人口減少対策は、行政のみでな  
く市民一人ひとりが協力して、で  
きることははじめの一步を踏み  
出すことが重要。皆さんが手を携  
えてまちづくりを行うことが現在  
の未来予測よりも20年先の五所川  
原市を希望の持てるまちにする」  
と総括しました。

参加した皆さんから出されたま  
ちづくりに対する提案については、  
幅広い世代の潜在的な意見として、  
現在策定中である次期五所川原市  
総合計画に反映させ、市政への市  
民参画を推進することとしていま  
す。

### 発表内容の概要

#### 資格支援バックアップ制度

高校で企業や大学を巻き込んだイベントを実施し、生徒が企業の求  
める人材や資格を適切に理解することで、自身の将来像を描きやす  
くするとともに、学校側でその資格を取得できる支援体制を整える。

#### 郷土愛がまちをつくる

学校で地域の歴史、郷土芸能など住民参加による授業を行い、郷土  
を学ぶ機会をつくり、郷土愛を醸成する。また、郷土について学んだ  
成果を発表する場を設け、多世代間のふれあいなど、地域全体にさま  
ざまな波及効果を生み出す。

#### 心を豊かに!! 地域環境向上

人口減少の要因である心理的不安と地域環境の対策として①人とつ  
なごう運動②まちをよく知ろう運動③まちをもっと良くしよう運動  
の3つの取組を3本の矢として一体的に実施し、住みよい豊かなま  
ちづくりを行う。

#### 津鉄沿線移住・定住プロジェクト

津鉄沿線の空き家・遊休農地といった地域の未利用資源を移住者に  
提供し、移住による就農を促進する。移住者の定住を促し、住みよい  
地域生活形成するため、津鉄の駅舎をコミュニティ活動の拠点とし  
て活用する。

#### 廃校利用型総合宿泊施設を作る

既存の廃校を総合的宿泊施設として活用し、食事も宿泊もできる地  
域の交流拠点として各教室を減塩レシピの地産地消レストランや伝統  
芸能の保存・継承など、さまざまな用途に活用する。

討議結果は、報告書としてとりまとめ、後日市長へ提出します。

## 講師(コーディネーター)プロフィール

氏名 (フリガナ)	平井 太郎 ヒライタロウ	
生年月日(年齢)	昭和 51年 5月14日 ( 38歳)	
勤務先	弘前大学大学院地域社会研究科	
家族	妻	
住所	〒036-8184 青森県弘前市松森町141 A-201	
TEL・FAX email	TEL 090-4415-3537 (勤務先) FAX 0172-39-3210 メールアドレス: of-hirai@nifty.com	
専門など	社会学	
経歴・職歴	西暦	
	2000年	東京大学教養学部教養学科卒業
	2003年	特定非営利活動法人 小田原まちづくり応援団 副理事長(現職)
	2008年	東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了、博士(学術)取得 日本女子大学人間社会学部学術研究員
	2010年	小田原市・国見町 歴史まちづくり協議会 委員(現職)
	2012年	弘前大学大学院地域社会研究科 准教授(現職)
	2012年	総務省地域力創造アドバイザー(現職)
	2012年	国土交通省集落地域における小さな拠点形成推進に関する検討会委員(現職) 2012年 青森県つがる西北五活性化協議会委員(現職)

平成26年度五所川原市民討議会 報告書

編集 平成26年度五所川原市民討議会実行委員会